

平成 25 年度 長崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

平成 25 年 2 月 25 日

- 工・歯・教育・薬学部は, [3] ~ [6] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 経済・水産・環境科学部は, [1], [2] 数 I・II・A・B (80 分)
- 医学部は, [3], [4], [6], [7] 数 I・II・III・A・B (120 分)

[1] 円 $C_1: x^2 - 4x + y^2 = 0$ と直線 $l: y = \frac{\sqrt{3}}{3}x$ がある. 次の問いに答えよ.

- (1) 円 C_1 と直線 l の交点のうち, 原点 O と異なるものを A とする. 点 A の座標を求めよ. さらに, 原点 O を頂点とし, 点 A を通る放物線 C_2 の方程式を $y = ax^2$ とする. a の値を求めよ.
- (2) 直線 l の傾きを $\tan \theta$ と表す. そのときの θ を求めよ. ただし, $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ とする.
- (3) 円 C_1 と直線 l で囲まれた図形のうち, 直線 l の上側にある部分の面積 S_1 を求めよ.
- (4) 円 C_1 と放物線 C_2 で囲まれた図形のうち, 放物線 C_2 の上側にある部分の面積 S_2 を求めよ.
- (5) 放物線 C_2 の接線で, 直線 l とのなす角が $\frac{\pi}{4}$ であるものを考える. そのすべてについて, 接点の x 座標を求めよ.

[2] 次の問いに答えよ.

- (1) $a_1 = \frac{3}{2}$, $a_{n+1} + 2a_{n+1}a_n - 3a_n = 0$ ($n \geq 1$) で与えられる数列 $\{a_n\}$ について, a_2, a_3, a_4, a_5 の値を求めよ. また, 一般項 a_n を推測し, その推測の結果を数学的帰納法で証明せよ.
- (2) $\frac{7}{12}\pi = \frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{4}$ であることを利用して $\sin \frac{7}{12}\pi$ を求め, $1 \leq x \leq 4$ のとき, 次の方程式を解け.

$$\sin x = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}$$

- (3) $0 \leq x < \frac{\pi}{2}$ とする. このとき, $X = \log_2 \cos x$ の範囲を求め, 次の不等式を解け.

$$2(\log_2 \cos x)^2 + (4 - \log_2 3) \log_2 \cos x + 2 - \log_2 3 \leq 0$$

注意 $\log_2 \cos x$ は $\log_2(\cos x)$ を表す.

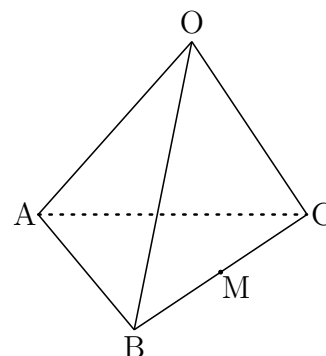
- 3 n を 2 以上の整数とする. n 個の実数 a_1, a_2, \dots, a_n が与えられたとき,

$$P_n = (a_1 + a_2 + \dots + a_n)^2, \quad Q_n = a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2$$

とおく. 次に, $1 \leq i < j \leq n$ を満たすすべての番号 i, j に対する $a_i a_j$ の和を R_n とする. たとえば, $R_2 = a_1 a_2$, $R_3 = a_1 a_2 + a_1 a_3 + a_2 a_3$ である. 同様に, $1 \leq i < j \leq n$ を満たすすべての番号 i, j に対する $(a_i - a_j)^2$ の和を S_n とする. たとえば, $S_2 = (a_1 - a_2)^2$, $S_3 = (a_1 - a_2)^2 + (a_1 - a_3)^2 + (a_2 - a_3)^2$ である. 次の問いに答えよ.

- (1) P_4 を Q_4 と R_4 を使って表せ.
- (2) すべての $n \geq 2$ に対して $S_n = (n-1)Q_n - 2R_n$ と表されることを, 数学的帰納法で証明せよ.
- (3) Q_4 を P_4 と S_4 を使って表せ.
- (4) $a_1 + a_2 + a_3 + a_4 = 1$ のとき, Q_4 の最小値と, そのときの a_1, a_2, a_3, a_4 の値をそれぞれ求めよ.

- 4 右図のような四面体 $OABC$ がある. 各面 ABC, OBC, OCA, OAB の重心を, それぞれ P, Q, R, S とし, 辺 BC の中点を M とする. また, $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}, \vec{OM} = \vec{m}$ とおく. 次の問いに答えよ.



- (1) \vec{OQ} を \vec{m} を用いて表せ. また, \vec{OP} を \vec{a} と \vec{m} を用いて表せ.
- (2) 線分 OP と線分 AQ の交点を G とする. 線分 OP 上の点 U は, 実数 s を用いて

$$\vec{OU} = s\vec{OP} \quad (0 \leq s \leq 1)$$

と表され, 線分 AQ 上の点 V は, 実数 t を用いて

$$\vec{OV} = (1-t)\vec{OA} + t\vec{OQ} \quad (0 \leq t \leq 1)$$

と表される. このことを利用して, \vec{OG} を \vec{a} と \vec{m} を用いて表せ.

- (3) $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ を用いて \vec{OR} を表せ.
- (4) $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ の中から必要なものを用いて, \vec{OR} および \vec{OS} をそれぞれ表せ. また, 点 G が線分 BR および線分 CS 上にあることを示せ.

5 曲線 $C: y = e^x$ 上の点 $P(t, e^t)$ における接線を l とする. 次の問いに答えよ.

- (1) 接線 l の方程式を求めよ.
- (2) 接線 l と x 軸の交点, 接線 l と y 軸の交点の座標をそれぞれ求めよ.
- (3) 曲線 C , 接線 l , y 軸および直線 $x = 1$ で囲まれた図形の面積 $S(t)$ を求めよ.
- (4) $0 \leq t \leq 1$ とする. このとき, $S(t)$ の最大値およびそのときの t の値, $S(t)$ の最小値およびそのときの t の値をそれぞれ求めよ.

6 次の問いに答えよ.

- (1) 関数 $y = -x + 2 - \sqrt{1 - x^2}$ ($-1 \leq x \leq 1$) の増減およびグラフの凹凸を調べよ. また, y の最大値およびそのときの x の値, y の最小値およびそのときの x の値を求めよ.

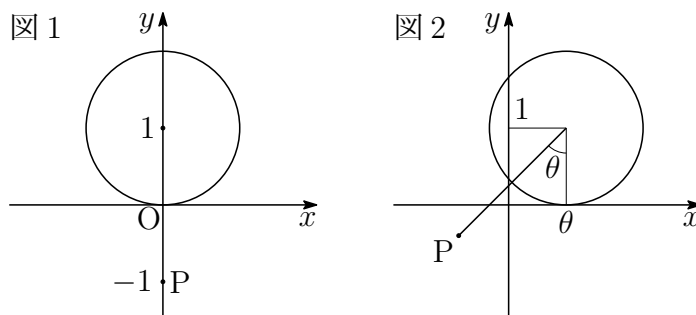
- (2) 2つの曲線

$$y = -x + 2 - \sqrt{1 - x^2} \quad (-1 \leq x \leq 1) \quad \text{と} \quad y = -x + 2 + \sqrt{1 - x^2} \quad (-1 \leq x \leq 1)$$

によって囲まれた図形 D を座標平面上に描け. なお, D の境界が座標軸との共有点をもつならば, その座標も記入せよ.

- (3) 上の図形 D を x 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を求めよ.

- 7 半径1の円と長さ2の線分がある．この線分の一方向の端点を，円の中心に合わせて円上に固定した図形を考える．線分の端点で，円の中心とは異なるものを P とする．この図形を下の図1のように xy 平面上に置く．すなわち，中心が点 $(0, 1)$ ， P が点 $(0, -1)$ と一致するように置く．



次に， x 軸上で正の方向に，すべらないように円を半回転させる．上の図2は円が θ だけ回転したときの状態を表している． $0 \leq \theta \leq \pi$ の範囲で，点 P が描く曲線 C について考察する．次の問いに答えよ．

- (1) 図2における点 P の x 座標と y 座標を，それぞれ θ を用いて表せ．
- (2) 曲線 C 上において， x 座標が最小となる点，最大となる点， y 座標が最小となる点，最大となる点について，それぞれの座標を求めよ．
- (3) 曲線 C と2直線 $y = -1$ および $x = \pi$ によって囲まれた図形の面積 S を求めよ．

正解

- 1 (1) $x^2 - 4x + y^2 = 0 \cdots \textcircled{1}$ と $y = \frac{\sqrt{3}}{3}x \cdots \textcircled{2}$ から y を消去すると

$$x^2 - 4x + \left(\frac{\sqrt{3}}{3}x\right)^2 = 0 \quad \text{整理すると} \quad x^2 - 3x = 0$$

ゆえに $x = 0, 3$ ②より, 点 A の座標は $(3, \sqrt{3})$

$y = ax^2$ が点 A を通るから $\sqrt{3} = a \cdot 3^2$ よって $a = \frac{\sqrt{3}}{9}$

- (2) $\tan \theta = \frac{\sqrt{3}}{3} \left(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$ より $\theta = \frac{\pi}{6}$

- (3) $x^2 - 4x + y^2 = 0$ より $(x-2)^2 + y^2 = 2^2$
 C_1 の中心を $B(2, 0)$ とすると

$$\angle OBA = \frac{2}{3}\pi$$

半径 2, 中心角 $\frac{2}{3}\pi$ の扇形の面積は

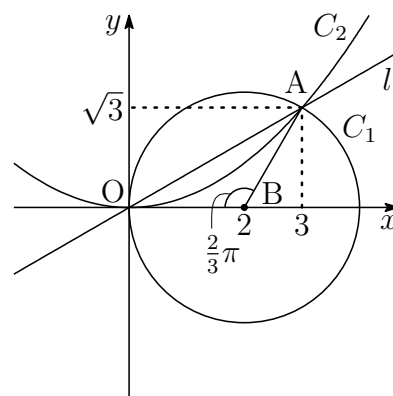
$$\frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \frac{2}{3}\pi = \frac{4}{3}\pi$$

$\triangle OAB$ の面積は $\frac{1}{2} \cdot 2^2 \sin \frac{2}{3}\pi = \sqrt{3}$ よって $S_1 = \frac{4}{3}\pi - \sqrt{3}$

- (4) l と C_2 によって囲まれた部分の面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^3 \left(\frac{\sqrt{3}}{3}x - \frac{\sqrt{3}}{9}x^2 \right) dx \\ &= -\frac{\sqrt{3}}{9} \int_0^3 x(x-3) dx = -\frac{\sqrt{3}}{9} \times \left(-\frac{1}{6}\right) (3-0)^3 = \frac{\sqrt{3}}{2} \end{aligned}$$

$$S_2 = S_1 + S \text{ であるから} \quad S_2 = \left(\frac{4}{3}\pi - \sqrt{3}\right) + \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{4}{3}\pi - \frac{\sqrt{3}}{2}$$



(5) l とのなす角が $\frac{\pi}{4}$ である直線の傾きは

$$\tan\left(\frac{\pi}{6} \pm \frac{\pi}{4}\right) = \sqrt{3} \pm 2 \quad (\text{複号同順})$$

$$y = \frac{\sqrt{3}}{9}x^2 \text{ を微分すると } y' = \frac{2\sqrt{3}}{9}x$$

したがって、求める接点の x 座標は

$$\frac{2\sqrt{3}}{9}x = \sqrt{3} \pm 2 \quad \text{よって } x = \frac{9 \pm 6\sqrt{3}}{2}$$

2 (1) $a_1 = \frac{3}{2}$ を $a_2 + 2a_2a_1 - 3a_1 = 0$ に代入すると

$$a_2 + 2a_2 \times \frac{3}{2} - 3 \times \frac{3}{2} = 0 \quad \text{ゆえに } a_2 = \frac{9}{8}$$

$a_2 = \frac{9}{8}$ を $a_3 + 2a_3a_2 - 3a_2 = 0$ に代入すると

$$a_3 + 2a_3 \times \frac{9}{8} - 3 \times \frac{9}{8} = 0 \quad \text{ゆえに } a_3 = \frac{27}{26}$$

$a_3 = \frac{27}{26}$ を $a_4 + 2a_4a_3 - 3a_3 = 0$ に代入すると

$$a_4 + 2a_4 \times \frac{27}{26} - 3 \times \frac{27}{26} = 0 \quad \text{ゆえに } a_4 = \frac{81}{80}$$

$a_4 = \frac{81}{80}$ を $a_5 + 2a_5a_4 - 3a_4 = 0$ に代入すると

$$a_5 + 2a_5 \times \frac{81}{80} - 3 \times \frac{81}{80} = 0 \quad \text{ゆえに } a_5 = \frac{243}{242}$$

以上の結果から、自然数 n に対して

$$a_n = \frac{3^n}{3^n - 1} \quad \cdots (*)$$

と推測する.

i) $n = 1$ のとき $a_1 = \frac{3^1}{3^1 - 1} = \frac{3}{2}$
 よって、 $n = 1$ のとき、 $(*)$ が成り立つ.

ii) $n = k$ のとき

$$a_k = \frac{3^k}{3^k - 1}$$

が成り立つと仮定すると、 $a_{k+1} + 2a_{k+1}a_k - 3a_k = 0$ より

$$\begin{aligned} a_{k+1} + 2a_{k+1} \times \frac{3^k}{3^k - 1} - 3 \times \frac{3^k}{3^k - 1} &= 0 \\ (3^k - 1)a_{k+1} + 2 \cdot 3^k a_{k+1} - 3^{k+1} &= 0 \end{aligned}$$

整理すると $(3^{k+1} - 1)a_{k+1} = 3^{k+1}$ ゆえに $a_{k+1} = \frac{3^{k+1}}{3^{k+1} - 1}$

よって、 $n = k + 1$ のときも、 $(*)$ が成り立つ.

i), ii) より、すべての自然数 n について、 $(*)$ が成り立つ.

解説 $(1 + 2a_n)a_{n+1} = 3a_n$ であるから、 $a_n \neq 0$ のとき $a_{n+1} \neq 0$
 $a_1 \neq 0$ であるから、すべての自然数 n に対して $a_n \neq 0$
 $a_{n+1} + 2a_{n+1}a_n - 3a_n = 0$ を $a_{n+1}a_n$ で割ると

$$\frac{1}{a_n} + 2 - \frac{3}{a_{n+1}} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{3^{n+1}}{a_{n+1}} - \frac{3^n}{a_n} = 2 \cdot 3^n$$

したがって、 $\sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{3^{k+1}}{a_{k+1}} - \frac{3^k}{a_k} \right) = \sum_{k=1}^{n-1} 2 \cdot 3^k$ より

$$\frac{3^n}{a_n} - \frac{3}{a_1} = 2 \cdot 3 \times \frac{3^{n-1} - 1}{3 - 1} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{3^n}{a_n} = 3^n - 1$$

よって $a_n = \frac{3^n}{3^n - 1}$

(2) 加法定理により

$$\begin{aligned}\sin \frac{7}{12}\pi &= \sin \left(\frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{4} \right) \\ &= \sin \frac{\pi}{3} \cos \frac{\pi}{4} + \cos \frac{\pi}{3} \sin \frac{\pi}{4} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \\ &= \frac{\sqrt{3}+1}{2\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4}\end{aligned}$$

$$\frac{\pi}{4} < 1 < \frac{\pi}{3}, \quad \pi < 4 < \frac{4}{3}\pi \text{ より}$$

$$\sin x = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4} \quad (1 \leq x \leq 4) \quad \text{これを解くと} \quad x = \frac{5}{12}\pi, \frac{7}{12}\pi$$

(3) $0 \leq x < \frac{\pi}{2}$ より $0 < \cos x \leq 1$

$$\text{ゆえに} \quad \log_2 \cos x \leq 0 \quad \text{よって} \quad \mathbf{X} \leq \mathbf{0}$$

$$X = \log_2 \cos x \text{ より, 与式は} \quad 2X^2 + (4 - \log_2 3)X + 2 - \log_2 3 \leq 0$$

$$\text{したがって} \quad (X+1)(2X+2-\log_2 3) \leq 0$$

$$-1 < \frac{\log_2 3 - 2}{2} < 0 \text{ に注意して} \quad -1 \leq X \leq \frac{\log_2 3 - 2}{2}$$

$$\text{ゆえに} \quad \log_2 \frac{1}{2} \leq \log_2 \cos x \leq \log_2 \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\frac{1}{2} \leq \cos x \leq \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$0 \leq x < \frac{\pi}{2} \text{ であるから} \quad \frac{\pi}{6} \leq x \leq \frac{\pi}{3}$$

$$\begin{aligned} \boxed{3} \quad (1) \quad P_4 &= (a_1 + a_2 + a_3 + a_4)^2 \\ &= a_1^2 + a_2^2 + a_3^2 + a_4^2 + 2(a_1a_2 + a_1a_3 + a_1a_4 + a_2a_3 + a_2a_4 + a_3a_4) \\ &= Q_4 + 2R_4 \end{aligned}$$

$$(2) \quad S_n = (n-1)Q_n - 2R_n \cdots (*) \text{ とする.}$$

i) $n = 2$ のとき

$$\begin{aligned} S_2 &= (a_1 - a_2)^2 = a_1^2 + a_2^2 - 2a_1a_2 \\ &= (2-1)Q_2 - 2R_2 \end{aligned}$$

よって, $n = 2$ のとき, $(*)$ が成り立つ.

ii) $n = k$ のとき

$$S_k = (k-1)Q_k - 2R_k$$

が成り立つと仮定し, 両辺に $\sum_{j=1}^k (a_j - a_{k+1})^2$ を加えると

$$\begin{aligned} S_k + \sum_{j=1}^k (a_j - a_{k+1})^2 &= (k-1)Q_k - 2R_k + \sum_{j=1}^k (a_j - a_{k+1})^2 \\ S_{k+1} &= (k-1)Q_k - 2R_k + \sum_{j=1}^k (a_j^2 + a_{k+1}^2 - 2a_ja_{k+1}) \\ &= (k-1)Q_k - 2R_k + Q_k + ka_{k+1}^2 - 2 \sum_{j=1}^k a_ja_{k+1} \\ &= k(Q_k + a_{k+1}^2) - 2 \left(R_k + \sum_{j=1}^k a_ja_{k+1} \right) \\ &= kQ_{k+1} - 2R_{k+1} \end{aligned}$$

よって, $n = k+1$ のとき, $(*)$ が成り立つ.

i), ii) より, $n \geq 2$ に対して, $(*)$ が成り立つ.

$$(3) \quad (2) \text{ の結果から } S_4 = 3Q_4 - 2R_4$$

$$\text{上式と (1) の結果から } R_4 \text{ を消去すると } Q_4 = \frac{1}{4}(P_4 + S_4)$$

(4) $a_1 + a_2 + a_3 + a_4 = 1$ より $P_4 = 1$

これを (3) の結果に代入すると $Q_4 = \frac{1}{4}(1 + S_4)$

S_4 が最小となるとき, Q_4 は最小となる.

$$S_4 = (a_1 - a_2)^2 + (a_1 - a_3)^2 + (a_1 - a_4)^2 \\ + (a_2 - a_3)^2 + (a_2 - a_4)^2 + (a_3 - a_4)^2$$

したがって, $a_1 = a_2 = a_3 = a_4$ のとき, S_4 は最小値 0 をとる.

よって, $a_1 = a_2 = a_3 = a_4 = \frac{1}{4}$ のとき, Q_4 は最小値 $\frac{1}{4}$ をとる.

補足 2次方程式

$$\sum_{k=1}^n (x - a_k)^2 = 0 \quad \text{すなわち} \quad nx^2 - 2x \sum_{k=1}^n a_k + \sum_{k=1}^n a_k^2 = 0$$

の判別式 D は, $D \leq 0$ であるから

$$D/4 = \left(-\sum_{k=1}^n a_k \right)^2 - n \sum_{k=1}^n a_k^2 \leq 0 \quad \text{ゆえに} \quad \sum_{k=1}^n a_k^2 \geq \frac{1}{n} \left(\sum_{k=1}^n a_k \right)^2$$

上式で等号が成り立つのは, $D = 0$, すなわち

$$a_1 = a_2 = a_3 = \cdots = a_n$$

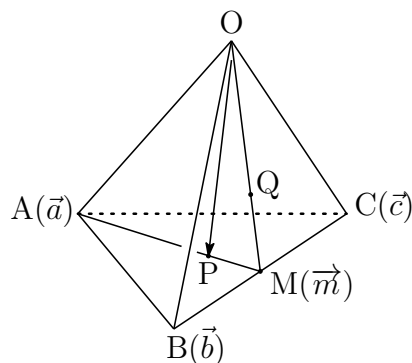
のときである.

- 4 (1) Qは△OBCの重心であるから,
OQ : QM = 2 : 1 より

$$\overrightarrow{OQ} = \frac{2}{3}\overrightarrow{m}$$

- Pは△ABCの重心であるから,
AP : PM = 2 : 1 より

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3}\overrightarrow{a} + \frac{2}{3}\overrightarrow{m}$$



- (2) Gは線分OP上の点であるから, 実数sを用いて ($0 \leq s \leq 1$)

$$\overrightarrow{OG} = s\overrightarrow{OP} = s\left(\frac{1}{3}\overrightarrow{a} + \frac{2}{3}\overrightarrow{m}\right) = \frac{s}{3}\overrightarrow{a} + \frac{2s}{3}\overrightarrow{m} \quad \dots \textcircled{1}$$

$\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, および(1)の結果から $\vec{m} = \frac{3}{2}\overrightarrow{OQ}$ であるから

$$\overrightarrow{OG} = \frac{s}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{2s}{3} \cdot \frac{3}{2}\overrightarrow{OQ} = \frac{s}{3}\overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{OQ} \quad \dots \textcircled{2}$$

Gは線分AQ上の点であるから, 実数tを用いて ($0 \leq t \leq 1$)

$$\overrightarrow{OG} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OQ} \quad \dots \textcircled{3}$$

と表される. ②, ③より

$$\frac{s}{3} = 1-t, \quad s=t \quad \text{これを解いて} \quad s=t = \frac{3}{4}$$

$$s = \frac{3}{4} \text{ を } \textcircled{1} \text{ に代入して} \quad \overrightarrow{OG} = \frac{1}{4}\overrightarrow{a} + \frac{1}{2}\overrightarrow{m}$$

- (3) MはBCの中点であるから $\vec{m} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}$

$$\text{これを(2)の結果に代入して} \quad \overrightarrow{OG} = \frac{1}{4}\overrightarrow{a} + \frac{1}{4}\overrightarrow{b} + \frac{1}{4}\overrightarrow{c}$$

(4) R, Sはそれぞれ $\triangle OCA$, $\triangle OAB$ の重心であるから, (1) と同様に

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OR} &= \frac{2}{3} \left(\frac{1}{2}\vec{c} + \frac{1}{2}\vec{a} \right) & \overrightarrow{OS} &= \frac{2}{3} \left(\frac{1}{2}\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{b} \right) \\ &= \frac{1}{3}\vec{c} + \frac{1}{3}\vec{a} & &= \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b}\end{aligned}$$

上式および (3) の結果より

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OG} &= \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{1}{4}\vec{c} & \overrightarrow{OG} &= \frac{1}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{1}{4}\vec{c} \\ &= \frac{1}{4}\vec{b} + \frac{3}{4} \left(\frac{1}{3}\vec{c} + \frac{1}{3}\vec{a} \right) & &= \frac{1}{4}\vec{c} + \frac{3}{4} \left(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b} \right) \\ &= \frac{1}{4}\overrightarrow{OB} + \frac{3}{4}\overrightarrow{OR} & &= \frac{1}{4}\overrightarrow{OC} + \frac{3}{4}\overrightarrow{OS}\end{aligned}$$

よって, G は線分 BR および線分 CS 上にある.

5 (1) $y = e^x$ を微分すると $y' = e^x$

ゆえに, 点 $P(t, e^t)$ における接線の方程式は

$$y - e^t = e^t(x - t) \quad \text{ゆえに} \quad y = e^t x - te^t + e^t$$

(2) (1) の結果に $y = 0$ とすると

$$0 = e^t(x - t + 1) \quad \text{ゆえに} \quad x = t - 1$$

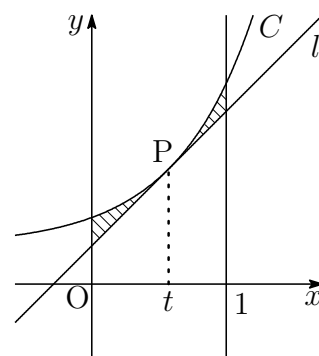
よって, l と x 軸との交点は $(t - 1, 0)$

(1) の結果に $x = 0$ を代入すると $y = -te^t + e^t$

よって, l と y 軸との交点は $(0, (1 - t)e^t)$

(3) $S(t)$ は, 右の図の斜線部分の面積であるから

$$\begin{aligned}S(t) &= \int_0^1 \{e^x - (e^t x - te^t + e^t)\} dx \\ &= \left[e^x - \frac{e^t}{2}x^2 + (te^t - e^t)x \right]_0^1 \\ &= \left(t - \frac{3}{2} \right) e^t + e - 1\end{aligned}$$



(4) (3) の結果から $S'(t) = \left(t - \frac{1}{2}\right) e^t$

$S(t)$ の増減は、次のようになる。

t	0	...	$\frac{1}{2}$...	1
$S'(t)$		-	0	+	
$S(t)$	$e - \frac{5}{2}$	\searrow	極小 $e - \sqrt{e} - 1$	\nearrow	$\frac{e}{2} - 1$

$$S(1) - S(0) = \left(\frac{e}{2} - 1\right) - \left(e - \frac{5}{2}\right) = \frac{1}{2}(3 - e) > 0$$

よって $t = 1$ のとき最大値 $\frac{e}{2} - 1$,

$t = \frac{1}{2}$ のとき最小値 $e - \sqrt{e} - 1$

6 (1) $y = -x + 2 - \sqrt{1 - x^2}$ ($-1 \leq x \leq 1$)... ① より

$$y' = -1 - \frac{-2x}{2\sqrt{1-x^2}} = -1 + \frac{x}{\sqrt{1-x^2}} = \frac{x - \sqrt{1-x^2}}{\sqrt{1-x^2}}$$

$$y'' = \frac{\sqrt{1-x^2} - x \cdot \frac{-2x}{2\sqrt{1-x^2}}}{1-x^2} = \frac{1}{(1-x^2)\sqrt{1-x^2}} > 0$$

$y' = 0$ とすると $x - \sqrt{1-x^2} = 0$ これを解いて $x = \frac{1}{\sqrt{2}}$

したがって、関数 ① の増減および凹凸は次のようなる。

x	-1	...	$\frac{1}{\sqrt{2}}$...	1
y'		-	0	+	
y''		+	+	+	
y	3	\searrow	極小 $2 - \sqrt{2}$	\nearrow	1

よって $x = -1$ のとき最大値 3,

$x = \frac{1}{\sqrt{2}}$ のとき最小値 $2 - \sqrt{2}$

(2) $y = -x + 2 + \sqrt{1-x^2}$ ($-1 \leq x \leq 1$)...②より

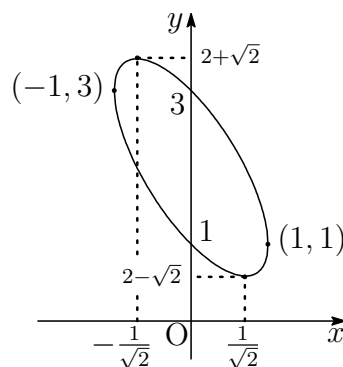
$$y' = -1 + \frac{-2x}{2\sqrt{1-x^2}} = -1 - \frac{x}{\sqrt{1-x^2}} = -\frac{x + \sqrt{1-x^2}}{\sqrt{1-x^2}}$$

$$y'' = -\frac{\sqrt{1-x^2} - x \cdot \frac{-2x}{2\sqrt{1-x^2}}}{1-x^2} = -\frac{1}{(1-x^2)\sqrt{1-x^2}} < 0$$

$y' = 0$ とすると $x + \sqrt{1-x^2} = 0$ これを解いて $x = -\frac{1}{\sqrt{2}}$

したがって、関数②の増減および凹凸は次のようになる。

x	-1	...	$-\frac{1}{\sqrt{2}}$...	1
y'		+	0	-	
y''		-	-	-	
y	3	↗	極大 $2 + \sqrt{2}$	↘	1



①と②によって囲まれた図形 D は右の図のようになる。また、

①より $x = 0$ のとき $y = 1$

②より $x = 0$ のとき $y = 3$

よって、 D は、 y 軸と $(0, 1)$, $(0, 3)$ で交わる。

(3) 求める回転体の体積を V とすると

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_{-1}^1 \{(-x + 2 + \sqrt{1-x^2})^2 - (-x + 2 - \sqrt{1-x^2})^2\} dx \\ &= 4\pi \int_{-1}^1 (-x + 2)\sqrt{1-x^2} dx \\ &= -4\pi \int_{-1}^1 x\sqrt{1-x^2} dx + 8\pi \int_{-1}^1 \sqrt{1-x^2} dx \\ &= 8\pi \int_{-1}^1 \sqrt{1-x^2} dx \\ &= 8\pi \times \frac{\pi}{2} = 4\pi^2 \end{aligned}$$

解説 $f(x, y) = ax^2 + 2bxy + cy^2 + 2px + 2q + r$ とする。

2次曲線 $f(x, y) = 0$ は、 $ac - b^2 > 0$ のとき楕円型、 $ac - b^2 < 0$ のとき双曲型、 $ac - b^2 = 0$ のとき放物型という。

$ac - b^2 \neq 0$ のとき、2次曲線の中心 (α, β) は

$$\frac{\partial f}{\partial x} = \frac{\partial f}{\partial y} = 0 \quad \text{すなわち} \quad \begin{cases} ax + by + p = 0 \\ bx + cy + q = 0 \end{cases}$$

の解である。このとき

$$f(x, y) = a(x - \alpha)^2 + 2b(x - \alpha)(y - \beta) + c(y - \beta)^2 + f(\alpha, \beta)$$

が成り立つ。したがって、2次曲線 $f(x, y) = 0$ は

$$a(x - \alpha)^2 + 2b(x - \alpha)(y - \beta) + c(y - \beta)^2 + f(\alpha, \beta) = 0 \quad \dots (*)$$

となる。行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ b & c \end{pmatrix}$ の固有値 λ_1, λ_2 は、固有方程式

$$\lambda^2 - (a + c)\lambda + ac - b^2 = 0$$

の解で、それぞれに対する単位固有ベクトルを $\vec{u} = \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \end{pmatrix}$, $\vec{v} = \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix}$ とし、

$$\begin{pmatrix} x - \alpha \\ y - \beta \end{pmatrix} = x' \begin{pmatrix} u_1 \\ u_2 \end{pmatrix} + y' \begin{pmatrix} v_1 \\ v_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} u_1 & v_1 \\ u_2 & v_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix}$$

とすると、(*) は

$$\lambda_1 x'^2 + \lambda_2 y'^2 + f(\alpha, \beta) = 0 \quad \dots (**)$$

となる (計算の詳細は、九大 2010 年一般前期理系数学 [5](#) の解説を参照¹⁾).

D は、①, ② から

$$x + y - 2 = \pm\sqrt{1 - x^2} \quad \text{ゆえに} \quad 2x^2 + 2xy + y^2 - 4x - 4y + 3 = 0$$

$f(x, y) = 2x^2 + 2xy + y^2 - 4x - 4y + 3$ とすると、 $a = 2, b = 1, c = 1$

$$(\alpha, \beta) = (0, 2), \quad f(0, 2) = -1$$

固有方程式は $\lambda^2 - 3\lambda + 1 = 0$ ($\lambda_1\lambda_2 = 1$)

D の表す方程式は $\lambda_1 x'^2 + \lambda_2 y'^2 - 1 = 0$

ゆえに、楕円 D の面積 S は $S = \pi \sqrt{\frac{1}{\lambda_1}} \sqrt{\frac{1}{\lambda_2}} = \frac{\pi}{\sqrt{\lambda_1\lambda_2}} = \pi$

求める回転体の体積 V は、パップス・ギュルダンの定理により (九大 2012 年一般前期理系数学 [1](#) の解説を参照²⁾)

$$V = 2\pi\beta S = 2\pi \cdot 2 \times \pi = 4\pi^2$$

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2010.pdf

²http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2012.pdf

- 7 (1) 円の中心を A とする.

動径 AP の x 軸の正の向きとなす角は, $\frac{3}{2}\pi - \theta$ であるから

$$\overrightarrow{AP} = 2 \begin{pmatrix} \cos(\frac{3}{2}\pi - \theta) \\ \sin(\frac{3}{2}\pi - \theta) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -2\sin\theta \\ -2\cos\theta \end{pmatrix}$$

$$\text{したがって } \overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AP} = \begin{pmatrix} \theta \\ 1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -2\sin\theta \\ -2\cos\theta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \theta - 2\sin\theta \\ 1 - 2\cos\theta \end{pmatrix}$$

$$\text{よって } x = \theta - 2\sin\theta, y = 1 - 2\cos\theta$$

- (2) (1) の結果から $\frac{dx}{d\theta} = 1 - 2\cos\theta, \frac{dy}{d\theta} = 2\sin\theta$

θ	0	...	$\frac{\pi}{3}$...	π
$\frac{dx}{d\theta}$		-	0	+	
x	0	\searrow	極小 $\frac{\pi}{3} - \sqrt{3}$	\nearrow	π

θ	0	...	π
$\frac{dy}{d\theta}$		+	
y	-1	\nearrow	3

x 座標が最小となる点は $(\frac{\pi}{3} - \sqrt{3}, 0)$ ($\theta = \frac{\pi}{3}$)

x 座標が最大となる点は $(\pi, 3)$ ($\theta = \pi$)

y 座標が最小となる点は $(0, -1)$ ($\theta = 0$)

y 座標が最大となる点は $(\pi, 3)$ ($\theta = \pi$)

- (3) 求める面積は, 右の図の斜線部分で, その面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_{-1}^3 (\pi - x) dy \\ &= \int_0^{\pi} \{\pi - (\theta - 2\sin\theta)\} \cdot 2\sin\theta d\theta \\ &= 2 \int_0^{\pi} (\pi \sin\theta - \theta \sin\theta + 2\sin^2\theta) d\theta \\ &= 2 \int_0^{\pi} (\pi \sin\theta - \theta \sin\theta + 1 - \cos 2\theta) d\theta \\ &= 2 \left[-\pi \cos\theta + \theta \cos\theta - \sin\theta + \theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\pi} \\ &= 2 \times 2\pi = 4\pi \end{aligned}$$

